

# 春の昆虫たち

晩春の気候になってきた私のフィールドワーク（それほど大げさでもありませんが）としている福田の里山にも、やっと多くの昆虫たちが顔を見せ始め、カメラもフル活動。撮れた獲物はまだ少ないのですが、過去に撮った画像など混ぜながら少し紹介してみます。ほとんど普通に見られるものばかりですがご容赦を。



## ▲ 羽化したての「ナナフシモドキ」

モドキとは似て非なるものをいいますが、ナナフシモドキはナナフシではない、ということではなく、これを漢字で書くと「竹節虫」となり、竹の節に似ているが竹ではなくナナフシだ、ということらしい……ややこしいですね。



## ▲ アワフキムシ

写真上 草などの枝に泡状の巣を作っているのをよく見かけます。

写真下 巣の中をのぞいてみると数匹の幼虫がいました。



▲ ニッポンヒゲナガハナバチ

触覚が非常に長いハナバチの仲間、オスは長いがメスはあまり長くなりません。春にのみ現れるハチで、巣は地中に作るらしいのです



▲ シオヤトンボ

よく似たトンボですが、シオヤトンボのしっぽ（腹部）の先が少しだけ黒いのに対して、シオカラトンボは三分の一弱が黒いのですぐ見分けられます。



▲ シオカラトンボ



▲ ニワハンミョウ



▲ ハンミョウ



▲ ツチハンミョウ

「ニワハンミョウ」は地味な色をしています。「ハンミョウ」はたいへんきれいな模様で覆われていて「ハンミョウ科」に属し「ツチハンミョウ」は他の2種とは違う「ツチハンミョウ科」です。見た目も全く別物ですね。ツチハンミョウにはががあり、うっかり手で持ったりすると水膨れになることがあるので気を付けたいですね。



▲ アシナガバチの一種

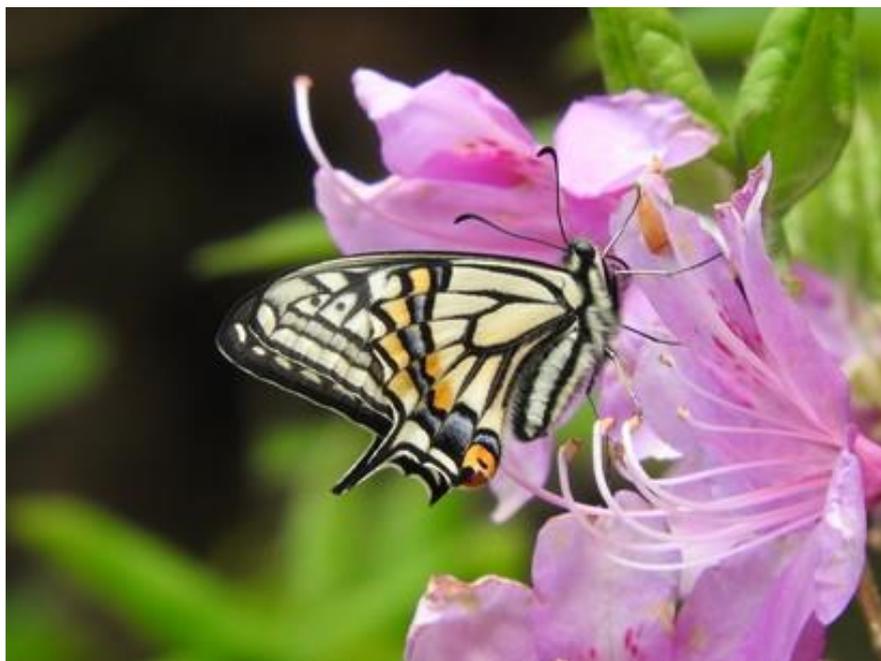
シリアゲと違って危険なハチです。巣に近寄らないのが一番で、巣があってもそっとその場から離れましょう。刺激を加えなければ比較のおとなしいハチです。「触らぬ神にたたりなし」です。





#### ▲ シリアゲムシの一種

見た目がとてもユニークな昆虫。顔がカーブのスライリーに似ていると思うのは私だけでしょうか？しっぽの先（腹端）がサソリの毒針に似ていますが、無毒とのこと。手で捕まえても、刺したりしないので大丈夫だそうです.....。



#### ▲ ナミアゲハ

ご存じアゲハチョウ科の代表格で、普通に「アゲハ」と呼んでいます。この春、羽化したものは春型と言ひ、夏型に比べて小さく、これは幼虫の時に摂るエサの量（春型は秋のエサが少ない時と夏型は春の比較的エサの多い時に幼虫として育つ）に関係しているとのこと。



#### ▲ ヘリグロテントウノミハムシ

まるでテントウムシにそっくりですが、ヒイラギやヒイラギモクセイなど生垣の葉を食い荒らす害虫で、よく見ると触覚が長く体長も4ミリ前後と非常に小さく、ノミのようによく跳ねるのでこの名がつけました。

### 昆虫の名前について

なかには気の毒になるほどユニークな和名を付けられている昆虫がいたりして、集めてみるのも面白いかなと思っています。その一例……「ムシクソハムシ」これが和名かと思うほどの、かわいそうなネーミングですね。



赤木賢治通信員